

平成20年10月21日

国土交通省道路局長 様

竹原市長

〒725-8666 竹原市中央五丁目1-35  
建設産業部建設課

今後の道路行政についての意見・提案の提出について (回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のこのことについては、別紙のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案

広島県竹原市

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

- 道路特定財源の一般財源化について、その税の目的から納税者の十分な理解を得ることが必要ではないか。
- 地方の実情を踏まえ、引き続き計画的・着実な道路整備に向けた制度設計が必要ではないか。
- また、必要とされる道路について、効率的な整備を進めるため、次のような取り組みが必要ではないか。
  - ・ 地方の実情が反映できる事業評価手法の導入
  - ・ 着実な道路整備を進めるためのスケジュール管理の徹底
  - ・ 今後増大する維持管理コストの低減、長寿命化によるストックの活用
  - ・ 地方の実情に応じた柔軟なローカルルール of 徹底

## 今後の道路行政についての意見・提案

## ②-1 地域の現状と抱える課題

広島県竹原市

○現状	○課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少子高齢化(H17 高齢化率 28.9%), 人口減少(S55→H17:約 6,200 人の減)の進行により, 財政面での厳しさが増すとともに, 活力の低下が懸念される。</li> <li>○ 市内に住み続けたいと考える市民は 7 割を超えるものの, 市民生活を支える道路の利便性に満足している市民は 4 割に満たず, また, 歩行者・自転車にとって安全と考えている市民は 3 割を下回るなど, 道路の整備や安全・安心に不満を持つ市民が多数を占めている。(市民意識調査, H19 年実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国的・構造的な少子高齢化, 人口減少の進行によって, 一層厳しい財政状況となることが予想されるなか, 持てるものを生かし, 住みよさや交流人口の拡大を目指していくとの観点から, 安全・安心や活力を生む道路の整備をはじめ, 住みよさが実感できる施策を推進し, 子供や高齢者が安心して暮らせるまちづくり, 住民が住んでよかったと誇れるまちづくりを進める必要がある。</li> </ul>

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

広島県竹原市

- 本市の持つ個性・特色である伝統・文化・歴史・自然を生かし、住みよさが実感でき、安全で、人が集まる元気なまち

## 今後の道路行政についての意見・提案

## ③ 道路施策の重点事項(代表事例, 期待する効果や評価等)

広島県竹原市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	一般国道 432 号バイパス 主要地方道三原竹原線 主要地方道東広島本郷忠海線(都市計画道路忠海中央線) 一般国道 185 号道の駅たけはら(仮称) 市道楠通成井線	交通基盤の充実による地域間の交流・連携の促進 高速交通体系へのアクセス強化による広域交流・連携の促進 地域連携・情報発信による賑わいづくり, 交流人口の拡大	
災害に強いしなやかな国土の形成	一般国道 432 号バイパス 一般国道 185 号 主要地方道三原竹原線 主要地方道東広島本郷忠海線(都市計画道路忠海中央線) 一般県道竹原吉名線 一般国道 185 号道の駅たけはら(仮称)	緊急輸送ルート強化, 迂回ルートの確保, 市街地における避難路の確保, 道路利用者の避難場所の確保等による安心して暮らせるまちづくりの推進	
少子・高齢社会に対応した子育て環境, バリアフリー社会の形成	一般国道 432 号バイパス 一般国道 185 号 主要地方道東広島本郷忠海線(都市計画道路忠海中央線) 市道丸子山横島線	安全で安心して歩ける歩行者空間の確保による, 安心して暮らせるまちづくりの推進	
地球温暖化の防止	一般国道 432 号バイパス 一般国道 2 号交差点改良	道路沿線の商業施設の立地, 宅地化の進展に伴う渋滞解消 右折レーンの拡充等の交差点改良による渋滞解消	

美しい国土の管理と継承	日本風景街道「R185 みちばた会議」	一般国道 185 号を基軸とし、沿線 4 市の住民を主体とした地域の交流・連携による個性豊かな地域の文化・歴史・自然の継承、地域の賑わいづくり、交流人口の拡大	
計画的・効率的な維持管理や更新の推進		投資余力の減少に対応した、適切な維持管理による道路施設の長寿命化、ストックの活用、コスト縮減	